



こちら 119

2021年7月

第129号

回覧

発行 直方・鞍手広域市町村圏事務組合消防本部

警戒レベル 住民等がとるべき行動

5 命の危険 直ちに安全確保！

警戒レベル4までに必ず避難

4 危険な場所から全員避難

3 危険な場所から高齢者等は避難

2 自らの避難行動を確認

1 災害への心構えを高める

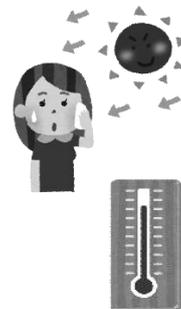
避難勧告は廃止、早めの避難を！

甚大な被害をもたらした2019年の台風19号等による災害の経験を踏まえ、避難情報に関するガイドラインが改定され、5月20日より施行されました。警戒レベルは全部で5段階あり、警戒レベル1「心構えを高める」、2「避難行動の確認」は気象庁が発するもので、警戒レベル3以上は市町村が発表し、より身近で切迫した危険を知らせる情報になります。従来はレベル3、4ともそれぞれ2段階ありましたが、これがとも分かりづらく、混乱を招く原因となり、避難せずに被災する人が続出してしまいました。今回の改定ではそれらがシンプルにわかりやすくなっています。レベル3は「高齢者等避難」、レベル4は「避難指示」になります。もしレベル4が発表されたら、「すぐに全員避難」する必要があります。従来の避難準備、避難勧告は廃止され、より行動に結びつけやすくなりました。

熱中症に気を付けましょう！

熱中症は、夏の強い日差しの下で激しい運動や作業をする時だけではなく、身体が暑さに慣れていない梅雨時期にも起こります。また、屋外だけではなく、高温多湿の室内においても発症する場合があります。重症化すると命に関わることもありまので、正しい知識を身につけて熱中症を予防しましょう。熱中症を引き起こす条件は、「環境」と「からだ」と「行動」によるものが考えられます。

- 「環境」
- 気温が高い
 - 湿度が高い
 - 締め切った屋内
 - 急に暑くなった



- 「からだ」
- 高齢者や乳幼児
 - 低栄養状態
 - 下痢やインフルエンザでの脱水症状
 - 二日酔いや寝不足といった体調不良



- 「行動」
- 激しい筋肉運動や、慣れない運動
 - 長時間の屋外作業
 - 水分補給できない状況



これら3つの要因により熱中症を引き起こす可能性があります。

熱中症を予防するため

・ 次の5点を心掛けましょう。

涼しい服装

日陰を利用

日傘・帽子の着用

水分・塩分補給 (スポーツドリンク等が効果的)

エアコンや扇風機の活用



大切な「いのち」を守るため、住宅用火災警報器を設置・点検しましょう！！

水辺の事故の約半数は死亡事故に！

令和2年夏期（7～8月の2か月間）に全国で発生した水辺の事故は504件、事故にあった人の数は616人です。そのうち262人が亡くなったり行方不明になったりしています。事故が起きてしまうと、命にかかわる重大なことになる可能性が高いのが水辺の事故の特徴です。

事故にあった616人を発生した場所別にみると、「海」では329人「河川」では221人と、この2つが大きな割合を占めています。

事故を防ぐために

水辺の事故を防ぐためには、自然環境の特徴を理解し、事故につながりやすい危険な場所などを知っておくことが重要です。また、些細な不注意や無謀な行動、危険な悪ふざけが水難事故につながることも多くあります。安全に海や川、レジャーを楽しむために次のことに注意しましょう。

○海の注意点

- 海水浴の際は、危険な場所を確認し、近づかないようにする
- 健康状態が悪いときやお酒を飲んだときは泳がない
- 悪天候のときは海に出ない
- 子供だけでは遊ばせない
- ライフジャケットを着用する



○川の注意点

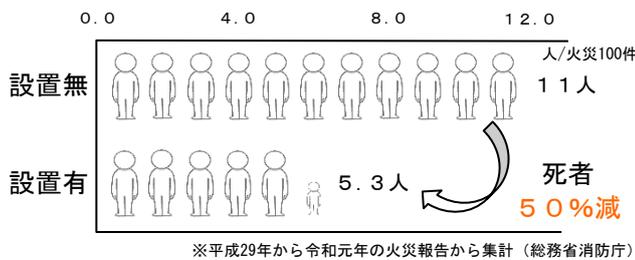
- 出掛ける前に天気や川の情報をチェックする
- 危険を示す掲示板、水流が速い、深みがあるところは避ける
- 河原や中州、川幅の狭いところに注意する
- 天気や川の変化に注意する
- ライフジャケットを着用する



忘れていませんか？

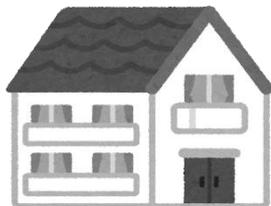
住宅用火災警報器の点検・交換

○住宅用火災警報器の効果にご注目
住宅用火災警報器を設置している場合は、設置していない場合と比較して死者の数は半減し、焼損床面積と損害額は大幅に減少しています。



焼損床面積 50%減少

損害額 40%減少



- 点検は定期的に！
本体のボタンを押すか、付属の紐を引きます。
 - 正常な場合、正常を知らせる音声が警報音が鳴ります。
 - 少なくとも年に2回は点検をしましょう。
- ☆ 反応しない場合は、すぐに交換しましょう！
- ☆ 設置から10年以上の場合も交換しましょう！

スプレー缶によるやけどに注意！

夏場は、制汗剤や冷却スプレー、殺虫剤、日焼け止めなど、スプレー缶を使用する機会が多くなる時期ではないでしょうか。スプレー缶による事故は、夏季に集中して発生しています。スプレー缶は、エアゾール製品と呼ばれ、ボタンを押すだけで細かい霧や泡を作り出すことができます。しかし、様々な場面で利用されています。しかし、噴射剤として可燃性の高圧ガスを使用していることが多いため、使い方を誤ると、爆発・火災事故につながるおそれがあります。

火気のあつた場所の近くでは使用しない



40度以上高温の場所では保管しない



予防技術資格者ワッペンが交付されました！

当消防本部では火災予防行政における資質及び能力を向上させるため、令和3年4月1日から火災予防に関する高度な知識や技術を有する者として消防庁が定める「予防技術資格者」の資格を有する予防課職員にワッペンを貸与し、査察（立入検査）等を通じて、更なる火災予防の推進・強化に取り組んでいます。

予防技術資格者とは？

建築物の大規模化・複雑化等に伴い高度化・専門化する予防業務を的確に行うため、火災の予防に関する高度な知識及び技術を有する職員です。



救急車を呼ぶべきか迷ったときは、#7119へ電話して下さい！